

ふくおが



日本酪農政治連盟 全国酪農民緊急特別集会(9月7日)

組合トピックス	1~6	コラム	8~9
MOMOステーション	7	色々問答	10

酪農を取り巻く状況

令和四年度も半年が経過しましたが、新型コロナウイルス感染症は終息への道のりは厳しく、七月からは第七波となる感染拡大

が続き、医療体制はひっ迫し機能不全な事態となりましたが、九月に入りようやく落ち着きを取り戻した状況にあります。酪農を取り巻く状況は、このコロナ禍に加え、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻と急激な為替相場の円安進行等の影響を大きく受け飼料価格は大きく上昇、また、各種生産資材価格も高騰を続け、経営環境は過去に経験したことが無い危機的な状況に陥っており、個々の酪農家の経営努力では到底対応しきれない事態を迎えています。

このような状況の中、県内の生乳生産量は、上期で三三、八九〇ト(前年比九三・五%)と二、三六五トもの減産となりました。組合では、四月～六月の受託乳量と購買供給数量を対象とした総額五千万円の経営支援対策を講じ、組

合員の支援を行いました。厳しさを増す経営環境もあり、上半期に既に八戸の組合員が経営離脱されています。

一方、乳価交渉において九州生乳販連では、全国に先駆けて、五月に「酪農生産基盤維持・存続にかかる(要請)」を乳業大手三社へ提出、酪農家の窮状を訴え期中での乳価改訂について鋭意交渉を重ねていたところ、七月に大手乳業より回答があり「飲用向け、発酵乳向けの生乳を対象に十一月から一〇円の値上げ」で決着しました。現状の生産コスト上昇分を補うまでには不十分な値上ですが、製品価格の上昇による消費減退、またコロナ禍での需給緩和状態に伴う乳製品在庫問題、更には、不要期における処理不可能乳の発生の懸念など、解決すべき課題は多く残されており、今後は追加での生産抑制対策に併せて、酪農関係者が一体となった理解醸成活動や消費拡大運動が重要となります。

このため、酪政連では自民党国会議員への要請活動に取り組み、九月七日に自民党本部において全国から酪農家約二〇〇名を集め「全国酪農民緊急集会」を開催、酪農現場の窮状を訴え早急な支援を要請しています。また、組合では七月より県内の市町村を訪問し支援要請活動を、九月八日には県内の畜産団体とともに福岡県知事及び福岡県議会議長に対し支援要請を行いました。

これらを受けて、国は飼料価格高騰緊急対策として助成事業を、福岡県においては、飼料購入経費の支援対策として、配合飼料及び乾牧草への購入助成事業がそれぞれ決定しました。また、支援要請を行った市町村においてはいくつかの市や町において支援対策が講じられることとなっています。しかし、これらの支援は一時的な負担軽減であり、根本的な改善策とはなりえないことから、経費上昇に対応できる経営安定制度の構築が求められます。併せて、今後において、輸入飼料価格がコロナ禍以前の水準に戻る可能性は低いと考えざるを得ず、政府は、変化に耐えられる足腰の強

い日本農業の確立に向け「食料農業・農村基本法」の見直し検討を始めるとしており、飼料の輸入依存体質からの脱却のため、更なる飼料の国内自給化への取り組み強化が必要になるものと思われる。



福岡県知事への支援要請(9月8日)



全国酪農民緊急集会であいさつする
森 英介 衆議院議員(自民党酪政会 会長)

福岡県乳用牛群改良 検定組合連絡協議会 第四十回通常総会を開催

八月二十二日(月)福岡県乳用牛群改良検定組合連絡協議会の第四十回通常総会が開催されました。

今年是对面での開催を計画していましたが、新型コロナウイルス第七波の影響によりオンラインで開催され、第一号議案から第四号議案まで可決承認されました。

連絡協議会では、県の検定推進会議、ふくおか県酪協及び検定組合と連携を密にし、酪農家の経営支援を目的に『検定組合間の連携強化』『検定農家への情報提供』等について推進を図ります。

なお、今年度の役員は下記のとおりとなっております。

検定組合	組合長名	役職
ふくおか県酪農業協同組合	草場 哲治	会長
甘木朝倉地区乳用牛群改良検定組合	岩下 寿秀	副会長
県北地区 //	金光 伸幸	理事
筑後地区 //	成清 伸明	理事
福岡支所 //	藤野和有基	監事
久留米 //	尾形 興一	監事

第四十六回 ふくおか県酪農 青年女性会議 総代会(書面議決)開催

第四十六回ふくおか県酪農青年女性会議の総代会は、新型コロナウイルスの影響により、七月二十五日(月)に書面にて開催し、第一号議案から第五号議案全て可決されました。

令和四年度も、理解醸成活動やスポーツ交流会、研修会など、会員相互の交流を行いながら、情勢の変化に対応できる足腰の強い酪農経営を考えて結束していきたいと考えていますので、皆さまのご協力お願い致します。



福岡県乳牛改良 協議会通常総会開催

七月十一日(月)にふくおか県酪本所会議室にて第十五回福岡県乳牛改良協議会通常総会が開催されました。

コロナ感染防止の観点から、令和二・三年と書面での開催でしたが、三年ぶりに対面での総会を開催することが出来ました。

総会には、十三名の会員が出席、中村会長を議長に選出し行われ、全ての議案が可決されました。

昨年度の改良協議会の事業・決算報告では、コロナ禍での活動となつたため、研修会や、福岡県B&Wシヨウ、オール九州B/Wシヨウなどが中止となり思うような活動が出来ない年となつてしまいました。

本年においては、研修会や、オール九州B/Wシヨウなども開催が予定されています。

酪農を取り巻く情勢は、非常に厳しい状況が続いていますが、乳牛の改良の成果をアピールし酪農経営の安定を目指すためにも、会員の皆様には積極的に活動へご参加いただけますようお願い申し上げます。

令和3年次 牛群検定成績まとまる

令和3年次の牛群検定成績結果が発表され、福岡県の検定農家における経産牛1頭当たりの平均年間乳量9,580kg（前年9,519kg）、平均乳脂肪率3.94%（前年3.94%）、平均無脂固形分率8.78%（8.76%）の成績となりました。

都府県（検定牛）の経産牛1頭当たりの平均年間乳量は9,644kgで、福岡県は都府県とほぼ同水準となっています。

検定組合ごとの生産・技術成績は下記のとおりです。

令和3年 牛群検定事業成績

項目 組合名	戸数	経産牛 1頭当り 年間 TMS量	経産牛 1頭当り 年間 乳量	経産牛 頭数	搾乳牛 頭数	平均 全固形 分率	平均 脂肪率	平均 蛋白 質率	平均 無脂固形 分率	平均 乾乳 日数	平均 分娩 間隔	平均 初産 月齢	平均 年齢	平均 産次	4%FCM	
	(戸)	(kg)	(kg)	(頭)	(頭)	(%)	(%)	(%)	(%)	(日)	(日)	(月)	(才月)	(産)	(kg)	
福岡支所 乳用牛群改良検定組合	41	1,222	9,675	54.2	47.5	12.63	3.87	3.31	8.76	64	449	25.2	4	2	2.8	9,492
	41	1,235	9,767	52.3	46.1	12.64	3.90	3.31	8.74	64	448	25.2	4	2	2.7	9,619
甘木朝倉地区 乳用牛群改良検定組合	28	1,179	9,274	37.5	32.9	12.71	3.97	3.30	8.74	67	460	25.6	4	1	2.6	9,234
	29	1,169	9,260	37.8	32.9	12.62	3.91	3.27	8.71	69	455	25.4	4	3	2.7	9,133
久留米地区 乳用牛群改良検定組合	38	1,281	9,996	58.0	51.4	12.82	4.00	3.35	8.82	61	452	25.5	4	3	2.8	9,994
	38	1,257	9,841	55.3	49.1	12.77	3.98	3.33	8.79	62	456	25.5	4	3	2.8	9,816
県北地区 乳用牛群改良検定組合	32	1,135	8,971	33.8	30.0	12.65	3.85	3.34	8.80	62	460	24.4	4	2	2.7	8,775
	32	1,131	8,909	33.5	29.7	12.69	3.90	3.34	8.79	61	460	24.7	4	3	2.8	8,781
筑後地区 乳用牛群改良検定組合	12	1,189	9,301	43.1	38.2	12.78	4.01	3.30	8.77	60	453	24.6	4	4	2.8	9,319
	14	1,159	9,065	42.5	37.7	12.79	4.03	3.31	8.76	61	458	24.5	4	6	3.0	9,101
合計 または平均	151	1,219	9,580	46.8	41.3	12.7	3.94	3.33	8.78	63	453	25.2	4	3	2.8	9,488
	154	1,209	9,519	45.5	40.2	12.7	3.94	3.31	8.76	64	454	25.2	4	3	2.8	9,430
ふくおか県酪 平均	174	1,134	8,936	-	-	12.69	3.91	-	8.78	上段:令和3年1月～令和3年12月 下段:令和2年1月～令和2年12月						
	182	1,116	8,819	-	-	12.65	3.89	-	8.76							
都府県	-	1,233	9,644	-	-	12.78	3.93	3.38	8.85							
	-	1,213	9,516	-	-	12.75	3.92	3.37	8.83							



筑後広域公園フィットネスエリア 全面オープンイベント

令和4年7月23日に筑後広域公園フィットネスエリア全面オープンに伴い記念式典及び県産農林水産物のPRイベントが行われました。イベントにはふくおか県酪も参加し、福岡県産乳製品の販売会、リーフレットの配布などを行い、酪農の理解を深めるとともに、牛乳の消費拡大を図りました。



「頑張る酪農家紹介」

飯塚支所 山内哲さん・美代子さん

▼就農年月 昭和四二年四月 (酪農歴五五年！)

▼経産牛四八頭 育成牛一五頭 和牛子牛八頭

就農からの経過

父が酪農をしており、継承する形で就農。
就農後、資金を借入れ七頭導入して一〇頭に増頭、現在では四八頭まで規模拡大されている。

奥様との出会い

美代子さんの叔父が当時酪農をしていたが、やめることになり山内牧場に牛の売却に来ていた際、一緒に来ていた美代子さんと出会い、哲さんから声をかけてお付き合いに発展。哲さんが二五歳の時に結婚し、娘さん三人が生まれ、仲良く暮らしています。

家族構成

山内哲さん・美代子さん 長女・次女・三女

今後の目標

現在の厳しい酪農情勢を乗り越え、一日でも早くコロナ前の経営状況に戻るように頑張っていきたい！人生に悔いなし！



第16回 福岡県乳牛共進会の開催

来る令和4年11月26日（土）、久留米市東合川筑後川河川敷（中干出公園横）において、第16回福岡県乳牛共進会が開催されます!!

前は、平成29年に第15回大会が開催され、本来であれば令和2年に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から2年連続で延期を余儀なくされました。

今回5年ぶりの開催となりますが、未だ完全終息とは至っていない事から、これまで同時に開催していた消費拡大コーナーや展示ブースなど、一般の方向けの催しは中止し、共進会のみを開催いたします。

審査員に九州ホルスタイン改良協議会 顧問 松島 喜一氏を迎え開催いたしますので、多数の出品をお待ちしております。

▶開催日時:令和4年11月26日(土)

▶審査員:松島 喜一氏 九州ホルスタイン改良協議会 顧問

▶開催場所:久留米市東合川筑後川河川敷(中干出公園横)

(出品区分、出品頭数)

部 別	区 分	出品頭数
第1部	未経産牛 8ヶ月以上 12ヶ月未満	15頭
第2部	// 12ヶ月以上 16ヶ月未満	15頭
第3部	// 16ヶ月以上 20ヶ月未満	10頭
第4部	// 20ヶ月以上 26ヶ月未満	10頭
第5部	自家産2頭1組	(10組)
第6部	経産牛2歳ジュニアクラス (30ヶ月未満)	10頭
第7部	経産牛2歳シニアクラス (30ヶ月以上 36ヶ月未満)	10頭
第8部	// 3歳クラス (36ヶ月以上 48ヶ月未満)	10頭
第9部	// 4歳クラス (48ヶ月以上 60ヶ月未満)	10頭
第10部	// 5歳クラス以上 (60ヶ月以上)	10頭

注)① 各部とも出品頭数が少ない場合、部の統合を行うことができる。

② 第6部出品牛は、1歳クラスの経産牛も含む。

③ 産次の算定にあたり、種付日を含めて、180日以上で早産又は流産したものは1産次とみなす。

④ 月齢算定の最終日は令和4年11月25日を基準とする。

MOMOステーション

(ふくおか県酪農青年女性会議ニュース)

甘木朝倉酪農女性部

部長 池田悦子

皆さんこんにちは。甘木朝倉酪農女性部部長をさせて頂いている池田悦子です。甘木朝倉酪農女性部は現在会員二十九名、役員四名で活動しています。

私は平成一九年に農協酪農部会からふくおか県酪農業協同組合に移籍してきました。

その当時は朝倉支部女性部会員約五〇名、役員八名と女性部の活動も活発な時期でした。朝倉市農業祭りや視察など皆さんと集まる機会が多くて、先輩達からいろんな事を教わり、笑いながらお喋りしたりして楽しい時間を過ごし、また悩みを相談できることで「また頑張ろう！」と思うことができました。

今では餌代など経費は上がっているのに、子牛の値段などは下がり、私達にとって大変な時期で、今年また離農される農家さんが増えてしまうのでは?!こんな時相談できるのは友達とかではなく、同じ酪農家しかわからない事だと思っています。

幸い私には、先輩酪農家さんが沢山周りにいてくれます。会えなくても電話で相談する事ができるので、今はどうにか頑張れています。しかし世代交代された若い世代の人は、コロナ過中で先輩会員さんとの交流がなかなかない状態です。

大変な時こそ皆で集まって情報交換など会話をすることが大切だと思いますが、感染者が増加している中、行事を実行する事が不安でたまりません。早くコロナが収まり会員さんと集まって行事や笑ってお喋りできるその日を楽しみに頑張りたいと思っています。若い世代のパワーももらえるともっと頑張れる!と思っています。



※写真は平成27年分です。女性部活動ができていた頃分です。

診療所日記

福岡診療所 獣医師 藤倉 篤史

「淘汰対象牛」の取扱いの注意点

・淘汰対象牛が増えている??

授精を行わず、今乳期限りで食肉などへ廃用予定(低乳量、繁殖障害など)の牛がいわゆる「淘汰対象牛」となります。これらの牛が増えている原因として、主に二つの理由が挙げられます。

①飼料価格の高騰を主要因とした、より効率的な牛乳生産が求められている

②市場における母牛価格の低迷により、より購入しやすくなっている

(現在の酪農情勢では①の理由の方が多いと思いますが)

通常、すぐに食肉用として出荷したいところですが、実際は屠場の受入れが滞っている場合や、ギリギリまで搾乳を続けたいという理由から、二定期間農場で継続して飼養されていることが多いのが現状です。

・問題事例

淘汰対象牛を継続して飼養した場合の問題として、発情兆候による乗駕・スタンディング行動を原因とした滑走、転倒が挙げられます。これらの事故により、枝肉損傷による価値の低下のみならず、最悪の場合、他の飼養牛が廃用となってしまう事例もあります。

今回の投稿では、先ほどの滑走・転倒事例の予防法と、牛群検定における淘汰対象牛の取扱いについて紹介します。

・発情を抑制するワクチンの使用

最近では、牛の乗駕・スタンディングなどの「発情行動」を抑制する薬品が使用されています。この薬品は、ホルモン剤ではなく、ワクチンに分類されており、発情周期を担うホルモンの一種に対応する抗体を作ることで、そのホルモンの作用を抑制する効果があります。

「方法・効果」

ワクチン接種と同様に皮下接種します。あくまでワクチンですので出荷制限はありません。二回目の接種後は、約三週間作用が持続し、約八〇%の乗駕等の発情行動を抑制したそうです。

(参考資料: <https://www.zoetis.jp/Is/cattle/bopriva/vets/>)

・牛群検定における取扱い

牛群検定においても淘汰対象牛に関する問題があります。検定情報の中で、淘汰対象牛が「繁殖に供さない」と設定されていますか? 検定情報の上で、繁殖予定の牛と繁殖に供さない牛が区別されていることは以下の二つの点で重要な事です。

①最終授精から七〇日以上授精報告が無い場合、「妊娠」とされてしまう

(ZartexO法)。

②未授精の場合も情報が取り込まれ、農場の繁殖成績が過小評価(分娩間隔やJMRの延長)されてしまう

一部抜粋した下表のように、検定情報には繁殖成績の評価の他、分娩時期後継牛の把握など重要な情報が載せられています。やはり農場の健康診断ともいえる検定情報から、問題点を抽出するために正しい情報を反映させたいところです。

初産分娩月齢	初産分娩月齢 (予定)						初産分娩月齢 (予定)		
	21以下	22~	24~	26~	28~	30以上			
1頭	1頭	1頭	2頭	2頭	1頭	27	(27)		
分娩間隔	分娩間隔 (予定)						分娩間隔 (予定)		
	頭数	365日未満	365~	395~	425~	455日以上			
2産	2	50%				50%	569 (368)		
3産	9	22%	11%	11%	11%	44%	468 (397)		
4産以上	9	11%	33%	11%	11%	33%	451 (417)		
平均又は合計	20	20	20	10	10	40	470 (408)		
月別分娩予定頭数	月別分娩予定頭数								
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
頭数 (初産)	()	2頭	1頭	3頭	2頭	頭	頭	2頭	()

「売上」を伸ばすだけでなく、今回の事例のような突発的な事故「損失支出」を減らすことも、大切な「利益」につながります。「売上」と「支出」の両方に目を向け、困難を乗り切りたいと思います。

福岡乳牛診療人工授精所(福岡支所駐在)
高野 敏宏

専任指導員日記

「逃れることのできない福岡の暑熱に対して、遺伝子改良というアプローチ」

今年の夏は早く始まりましたね。乳牛において、最高THI(温湿度指数)よりも最低THIの方が負の影響を及ぼすという研究があります。つまり、最高気温が高いことよりも、最低気温が下がらない方が乳牛にとってしんどいということになります。昨年の7月と比較して今年の7月は平均の最低気温は高かったです(昨年24.6℃ 今年25.0℃)。その結果、7月の繁殖成績があまり良くなかった方も多かったのではないのでしょうか。

本題に入ります。タイトルにある通り、暑熱に対しての遺伝子によるアプローチを紹介します。「SLICK遺伝子」と「暑熱耐性」の2つです。

「SLICK遺伝子」

スリック遺伝子は簡単に言うと、短毛の遺伝子です。スリック遺伝子を保有すると、体毛が短くなり、なめらかで光沢のあるものになります(スリックヘア)。フロリダ大学が暑熱期に行った実験では、腔内温度が従来のホルスタインと比較してスリック型ホルスタインの方が有意に低くなることがわかりました(スリック型 : 38.5±0.04℃ vs 従来型 : 39.1±0.05℃)。直腸温度や皮膚温度においても、スリック型が有意に低いことがわかっています。

体温が低い理由としては、発汗作用に優れているためと考えられています。

現在、スリック遺伝子を保有する種雄牛はジョース(551HO04261) やソーラーP(009HO15357) がすでに供給開始されています。まだまだTPIが低く、第一世代では50%の確率でしかスリック型が生まれえない等のデメリットがありますが、1年の半分が暑熱期である福岡で真剣に検討する価値はあると思います。

(ホルスタイン通信2022-7より一部引用)

「暑熱耐性」

国内において、2021年8月に暑熱耐性の遺伝的能力評価が新たに開始されました。

暑熱耐性(円)はTHI=60(気温が約16℃、湿度が約50%)とTHI=72(気温が約25℃、湿度が約50%)の環境における乳量および体細胞スコアの評価値の差を暑熱耐性(乳量)と暑熱耐性(体細胞スコア)として、以下の経済的な重みづけにより求めています。

暑熱耐性(円) = 35.7円 × 暑熱耐性(乳量) - 143.5円 × 暑熱耐性(体細胞スコア)

※ [35.7円] は平成27~29年の生乳1kg当たりの所得

暑熱耐性の評価値が高い牛は、THIが増加しても乳量は低下しにくく、体細胞スコアは増えにくい牛となります。泌乳能力の低下というデメリットはありますが、暑熱耐性の評価値が高い種雄牛を使用するのも一つの方法です。

(家畜改良センターHPより一部引用)

まとめ

他にも、暑熱に強い品種との「クロスブリーディング」という方法もありますが、まだ実用に至っていません。現実的に考えられるのは上記の2つだと思います。

ここまで読んで、「スリック遺伝子ちょっとおもしろそうだな」と興味を持っていただいた方に朗報です。明日からでもスリック遺伝子の効果が得られる方法があります。それは「毛刈り」です。毛刈りでスリック遺伝子と同様に体内温を下げるができるという報告があります。短毛の遺伝子を導入するのではなく、人為的に短毛にすれば良いのです(ノーリスク)

いかがだったでしょうか?繰り返しになりますが、福岡において1年の半分(4-10月)は暑熱期です。暑熱対策にも様々なアプローチがありますが、今回は授精師として遺伝的観点からの暑熱対策を紹介しました。

おまけ

最近「Alta Bull Search」というアプリを重宝しています。種雄牛の血統だけでなく、体型、健康形質も詳細に調べることができます。お気に入りリストも作成できます。無料でダウンロードできるので、ぜひ使用してみてください。

堆肥を活用して耕畜連携を進めよう

飼料や肥料の価格高騰がおさまりそうもありません。濃厚飼料や乾牧草はほとんどが輸入で、購入に頼っている限り、海外情勢や為替に左右される経営になってしまいます。

国は酪農経営の窮状についての補助制度を掲げています。これで一息はつけたとしても、根本的な改善にはなっていないようです。大事なのは飼料の自給率を上げていくことです。が、そう簡単に自給飼料の増産や圃場の拡大はできないので、耕畜連携を今以上に進め、自給率を増やす必要があります。

また、農業施策として国は「みどりの食料システム戦略」で有機農業を提唱しています。堆肥を活用し、できるだけ化学肥料を抑えようという戦略です。さらに、最近の肥料の価格高騰を受けて耕種農家に堆肥を求める動きが強くなっています。糞尿処理のチャンスがめぐってきたのです。しかし、生糞尿のままでは、地域周辺からも嫌われて運べないし、耕種農家も受け入れてくれません。より高品質な堆肥作りが求められます。ある程度発酵した品質になると耕種農家の圃場に入れることができます。さらにきちんと発酵した完熟堆肥になると近隣の耕種農家だけで

なく、経営外の広範囲にも販売が可能になります。自分の圃場にも入れる分が確保できないほど人気になることもあります。いまや酪農家の堆肥は農業の重要な位置づけを担っています。

乳牛の排せつ物は乳量の約2倍でるといわれています。生乳は毎日出荷されますが、排せつ物はそのままでは誰ももっていつてくれません。誰もが使える堆肥を作る努力をしましょう。いかにうまく発酵させ堆肥化するかが、日本の農業や土づくりにかかせなくなっているのです。

耕畜連携とは、耕種農家が水田で飼料作物を作つて畜産農家に供給し、畜産農家が水田に堆肥を還元する取り組みです。ウクライナ危機や円安の影響で、高騰が続く輸入肥料・飼料の代替になるだけでなく、需要が減る主食用米からの作付け転換につながっていきます。水田を介して飼料と堆肥が循環し、環境負荷が軽減し、持続可能な農業にも寄与していきます。

耕畜連携には、良質の堆肥が不可欠です。良質な堆肥をもっていることで耕種農家との繋がりが深まり、そこから話が進んでいきます。耕種農家が転作田などでイネWCSや飼

料作物を栽培し、さらに余った圃場も貸すなどで関係が発展していきます。良質堆肥の生産で飼料の自給率がアップするのです。

地域内で連携することは、肥料・飼料の高騰対策だけでなく、環境負荷を軽減し、飼料自給率の向上といった国内農業の長期的な課題にも貢献します。これからの農業はただ生産するだけでなく、環境や景観に配慮し、周囲と調和した方向でないと社会からも認知されにくくなっています。粗飼料を輸入することは簡単ですが、環境を輸入することはできません。環境は自分たちで作っていくものです。家畜排せつ物の堆肥化を通じて、耕種農家との連携を深めていくことが求められています。



「2022夏ギフト」ご協力ありがとうございました!

牛乳・乳製品の消費拡大運動の一環として行いました7、8月の「2022夏ギフト」では多くのご利用を頂きました。組合員、役職員の皆様、ご協力ありがとうございました。11月から冬ギフトが始まりますので、引き続きご協力の程、よろしくお願い致します。



今年度も九州の酪農家、関係団体が丸となって、九州産生乳の安定的な需要維持・拡大を目的に、統一デザイン（ミルとミクの運動用パッケージ）で製造した九州産しし牛乳とバターの利用拡大推進運動を実施しますので、ご協力をお願いします。

実施時期は、十二月頃となりますので、ご家庭・贈答用としてぜひご利用下さい。

令和四年度 牛乳・バター利用拡大 推進運動の実施について



P.N. 甦る獅子

コロナさん
いつまでいるの
サヨウナラ

俳句・川柳コーナー

人事異動

I. 退職 (令和4年9月30日付)

氏名	旧所属	備考
石橋 正夫	久留米支所 支所長	定年退職

III. 異動等 (令和4年10月1日付)

氏名	新所属	旧所属等
石橋 正夫	久留米支所 支所長 ※定年再雇用	久留米支所 支所長
橋本 昌幸	酪農部 部長代理	福岡支所 支所長
塩田 弘文	管理部 部長代理	酪農部 次長
津留崎孝嘉	福岡支所 支所長	福岡支所
遠藤 直美	酪農部	管理部